



一日も早く 東京医療センター(東京都目黒区)の 急性心筋梗塞への対応 元の生活への復帰を



心血管・不整脈センター内の集中治療施設内で申し送りをする医師と看護師。ICU/CCUが6床完備されている



「心筋梗塞を含めた動脈硬化性疾患の予防には、高齢者だけではなく、若い人も日ごろから食事やたばこには気を付けてほしい」と縦山医師



患者が早期回復・退院できるよう、歩行訓練などの心大血管リハビリをいち早く取り入れ、実績を積み重ねているのも心血管・不整脈センターの特徴のひとつ。心臓リハビリテーション指導士の資格をもつ看護師と理学療法士がペアを組み、患者が安全に機能回復できるよう支援している

■ 心臓疾患専門のセンター

昨日まで元気だった30～40代の働き盛りの人が、心臓の病気が原因で亡くなってしまうことがあります。そんな疾患の代表が急性心筋梗塞で、特に心筋梗塞の恐れがある人は一刻も早く、病院で治療を受ける必要があります。

東京医療センターは、循環器内科と心臓外科が一体となった心血管・不整脈センターを2015年に開設し、心臓病の症状が現れた救急の患者さんにきめ細かな医療を提供しています。心血管・不整脈センターの縦山(もみやま)幸彦医師(心血管・不整脈センター長)は、「心臓の血管が詰まってしまう病気が心筋梗塞です。治療法は、カテーテルという細い管を血管に入れ、詰まった血管を開通させます」と話します。

心血管・不整脈センターと地域の医療機関をつなぐ専用回線“ハートライン”による連携も万全で、日中は救急当番の若い医師が、夜間は当直医が治療を担当しており、地域の医療機関から要請があればすぐに担当医が診断するようになっています。



若い医師や看護師が目立つ心血管・不整脈センターのスタッフステーション。ICUやCCUの隣にあり、患者さんの急変にもすぐに対応できる

■ ネットワークと若手医師の力で

東京都内には、都内73の医療施設が加盟(2018年10月末現在)する東京都CCU^{※1}ネットワークがあり、東京医療センターもそのひとつです。加盟施設は当番日を決めて(輪番制)、24時間いつでも急性心筋梗塞を含めた心臓疾患の患者さんに対応できる体制を整えています。

また、東京医療センターの心血管・不整脈センターで心筋梗塞に対応するのは循環器内科で、年間130件前後の診療を行っています。循環器内科には、医師7名と後期研修医^{※2}6名(2018年9月現在)がいますが、研修医が多いことも特徴のひとつです。縦山医師は「一刻を争う急性期医療には体力が必要なので、若い医師の力が不可欠です」と教えてくれました。

「かつて急性心筋梗塞で救急搬送された人のうち、20%程度が病院にたどり着く前に亡くなっていました。CCUネットワークができてからは徐々に改善され、今では院内死亡率が5%になっています」と縦山医師。そして、「急性心筋梗塞は時間との勝負です。今まで経験したことのない胸の痛みが続くようなら、迷わず専門の医師にかかってください。心筋梗塞の恐れがあります」と呼びかけます(P14「もしもに備えて」参照)。

※1 心臓血管系の重症患者対象の集中治療室

※2 初期研修(2年間)を終えて専門の診療科へ進んだ、概ね3～5年目の医師

病気の再発を防ぐための新薬開発



縦山医師は東京医療センターの臨床研究・治験推進室長でもあり、治験にも力を入れている。新薬の開発には患者さんと病院、そして主治医やCRC(臨床研究コーディネーター)との信頼関係の構築が欠かせないと縦山医師(写真は患者さんに治験について説明するCRC)。

東京医療センター(東京都目黒区)



許可病床数780床の高度急性期病院。心血管・不整脈センターは24時間体制で急性心筋梗塞、心不全や大動脈解離を中心とする救急医療を担っており、心臓カテーテル検査・治療は年間600～700件にものぼる。